人材育成委員会　インフォーマルミーティング　報告

【JSAP Student Chapter（仮称）の設立に向けて】
主催：応用物理学会人材育成委員会
日時：2012 年 3 月 16 日（金）　15:00～17:00
場所：早稲田大学・早稲田キャンパス（春季学術講演会会場）7 号館 206 B22 会場
プログラム：

あいさつ
　応用物理学会第 51 期会長小長井誠
九州支部における学生のアクティビティ
　木須 隆暢（応物九州支部 九大院シス情）
IEICE 東京支部学生会活動内容について
　太田真衣（電子情報通信学会東京支部学生会前委員長 電通大院情報理工 D2）
Student Chapter の意義とメリット － ホームグラウンドとしての応物活用法 －
　庄司 一郎（人材育成委員会若手部門長 中央大理工）
パネルディスカッション
　総合司会 中村 淳（人材育成委員会企画部門副部門長 電通大院先進理工）
まとめ
　荒木 勉（人材育成委員会委員長 阪大院基礎工）

討論内容
（経緯）将来計画委員会等から人財育成・教育事業委員会への宿題として「学生部会の設立」が掲げられている。その設立の狙いは
・学生や若手研究者ネットワーク構築の場の提供
・学生の対外試合の場（若手学生セッションなど）の提供と encouragement
・学生会員の増強と若手会員の学会定着率の増加
等があろう。しかし、設立の意義やその対象会員の範囲、運営方法など、どのような形で学生部会を設置するのが応用物理学会として効果的かを、海外も含めた他学会の事例とその現状を踏まえて建設的に議論を積み上げる必要がある。本インフォーマルミーティングでは、そのファーストステップとして、他学会での事例紹介を交えながら
・応用物理学会における学生部会設立の意義と目的
・設置形態と活動内容
を検討することを目的とした。小長井会長より、応用物理学会でこのような活動を進めることについての意義が述べられた後、支部活動の一例として、九州支部の木須先生（九大）より、九州支部においては学生が主対象の講演会・奨励賞の設定、日韓ワークショップ等地の利を活かした国際活動において学生が活躍している事例が紹介された。続いて、すでに学生部会を設置し成功を収めている電子情報通信学会の学生のアクティビティについて、同学会東京支部学生会前委員長の太田さん（電通大Ｄ２）より、学生が主体となった活動が長年伝統的に続いて定着していること、支部と各大学毎のブランチの関係など、学生会の仕組みが紹介された。学生が主体となって組織されており、また、そこに参加する学生の意識の高さに応物関係者からは感嘆のため息が漏れた。また、応用物理学会人材育成委員会の前若手部門長である庄司先生（中央大）より、学会参加の歴史は研究者としての自分の歴史そのものであったとのご自身の経験から、様々な提言が示された。最後に講演者をパネリストとして、会場全体でパネルディスカッションが行われた。以上の議論を通して、学生部会としての Student Chapter の考え方として
・学生にとってメリットのある制度（キャリアデザインを考える機会）
・学生が主体的に活動することによる意欲の持続・ネットワークの構築
等が、学会として目指す方向性であることが見えてきた。ただ、それをどのようなやり方で緒を付け発展させて行くのかの筋道、運営の方法については、限られた時間の中では具体策が見えるには至らなかった。

今後、Student Chapter 設置に向けた応用物理学会における方向性を、まず人材育成委員会を中心に具体的に検討を開始する。その過程で、支部活動との連携や学術講演会における独自イベント開催など、人材育成委員会の枠を超えた学会内諸組織の横断的な設立検討部会を立ち上げ、様々な側面から Student Chapter の設立メリット・運営方法を具体化して行く。（中村淳）